

平成29年度  
ごみ組成測定分析調査業務報告書  
概要版



平成30年3月

千葉市環境局

# 1 調査概要

ごみは、市民生活及び経済活動の結果として排出され、その組成は生活様式や経済動向等の社会情勢を反映しながら絶えず変動しています。ごみの組成を明らかにすることは、ごみの収集・処理方式やごみ処理施設整備の検討には不可欠であり、また、施策の企画立案、実施及び諸計画の策定にあたっても基礎的なデータとして高い利用価値があるなど、清掃行政を的確に進める上で非常に重要です。

## 1) 対象ごみ

市内2清掃工場（北清掃工場、新港清掃工場）に搬入されたごみ収集車から、家庭系可燃ごみと事業系可燃ごみを対象として試料を採取し、調査しました。

採取した試料は、やわらかいプラスチック、かたいプラスチック、紙類、生ごみ、ゴム・皮革、木・草類、布類、陶磁器・石、鉄、アルミ、その他金属、ガラス類、有害ごみ、医療ごみ、その他可燃物、その他不燃物に分類しています。

## 2) 時季・地区

調査は夏季（7～8月）と冬季（1月）に分けて実施しました。

家庭系可燃ごみは6区（中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、緑区、美浜区）それぞれから任意の6地区（夏季、冬季ともに3地区）、計36地区について調査しました。

事業系可燃ごみは、市内に所在する事業所から任意の18事業所（夏季、冬季ともに9事業所）について調査しました。



## 2 調査結果

### 1) 物理的組成

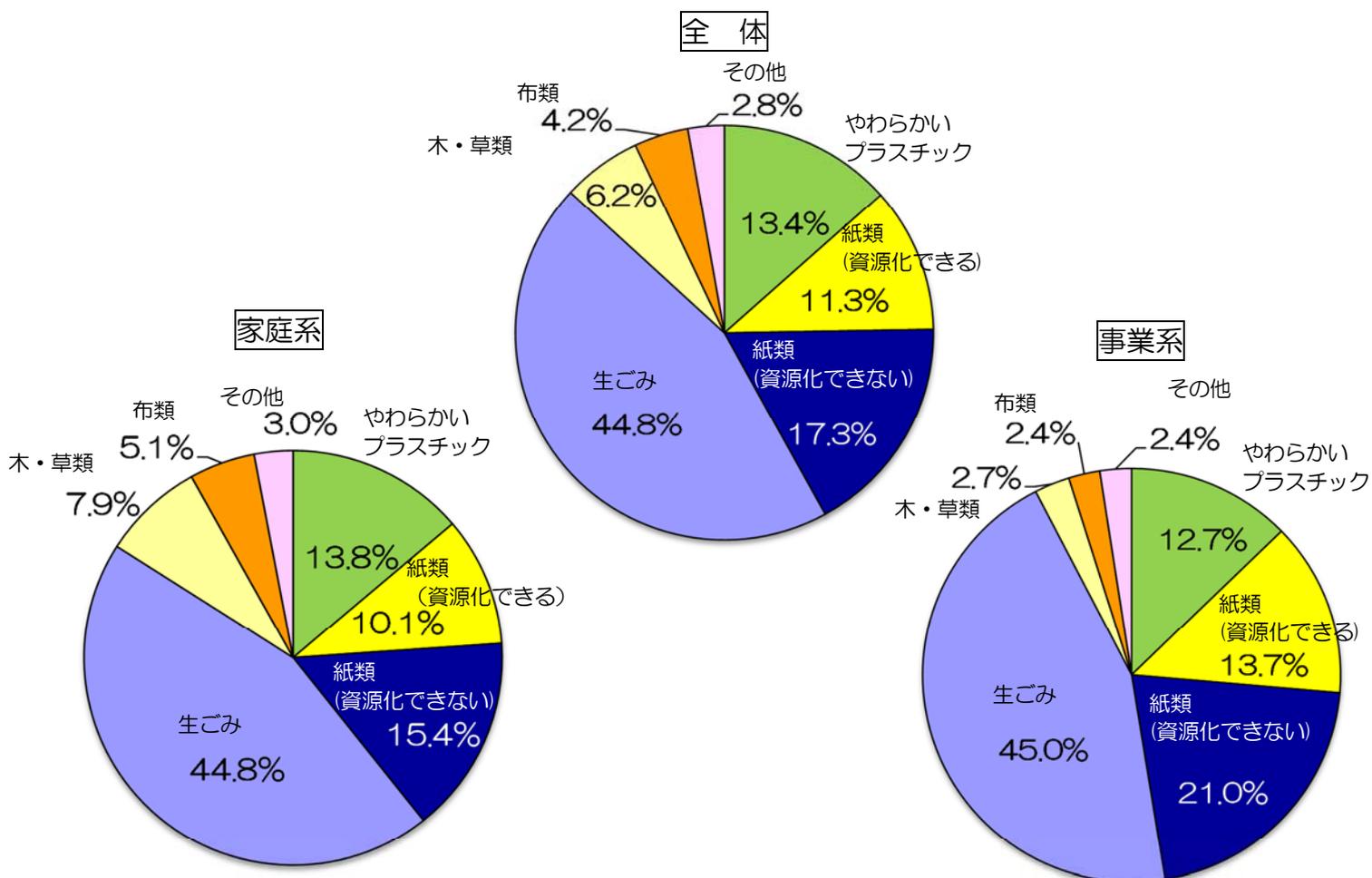
家庭系可燃ごみは、生ごみ、紙類、やわらかいプラスチックの順に高い値を示し、3つの合計が家庭系可燃ごみ全体の約85%を占めました。

事業系可燃ごみも、家庭系可燃ごみと同様に、生ごみ、紙類、やわらかいプラスチックの順に高い値を示し、3つの合計が事業系可燃ごみ全体の約90%を占めました。

可燃ごみ全体では、生ごみ、紙類、やわらかいプラスチックの3つの合計が全体の約85%を占めました。

(単位：%)

項目 年度	やわらかい プラスチック	紙類		生ごみ	木・草類	布類	その他
		資源化 できる	資源化 できない				
家庭系	13.8	10.1	15.4	44.8	7.9	5.1	3.0
事業系	12.7	13.7	21.0	45.0	2.7	2.4	2.4
全 体	13.4	11.3	17.3	44.8	6.2	4.2	2.8



※1 全体とは、家庭系と事業系の平均です。

※2 百分率の数値は端数処理を行っているため、合計が『100%』にならないことがあります。

## 2) 資源物品別排出状況

家庭系可燃ごみでは、全体のうち 18.8%を資源物が占めており、その大部分が紙類となっています。中でも、紙容器、新聞・折込、雑誌・パンフレットの割合が大きくなっています。

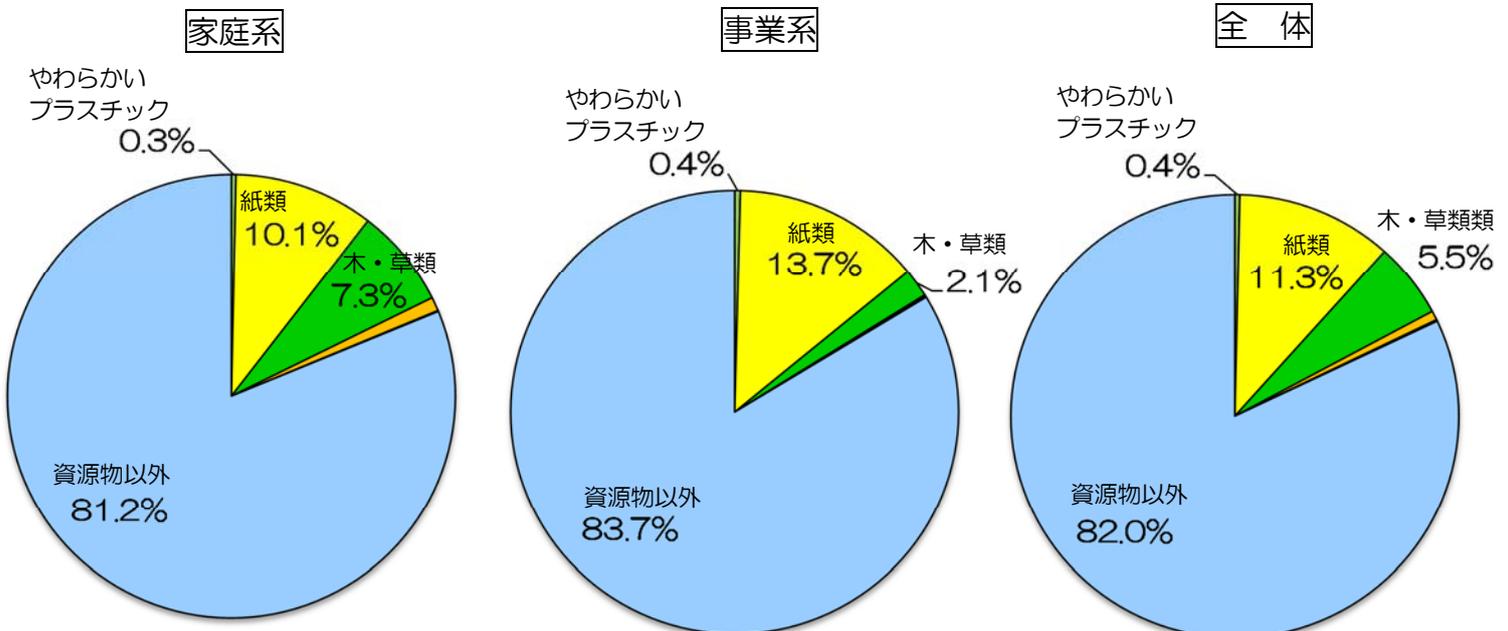
事業系可燃ごみでも家庭系可燃ごみと同様に、全体のうち 16.3%を資源物が占めており、その大部分が紙類となっています。中でも、紙容器、OA 用紙、雑誌・パンフレットの割合が大きくなっています。

※ 資源物に該当するもの

- ・ やわらかいプラスチック ⇒ ペットボトル（飲料・醤油用）
- ・ 紙類 ⇒ 飲食料用紙パック（アルミ無し）、段ボール、包装紙、紙容器、新聞・折込、雑誌・パンフレット、OA 用紙
- ・ 木・草類 ⇒ 植木剪定くず、切り花
- ・ 布類 ⇒ ウェスに利用できるもの
- ・ 鉄、アルミ ⇒ 飲食料用缶、栓・キャップ
- ・ ガラス類 ⇒ ワンウェイびん等（化粧品、ドリンク剤、飲食品類のびん）、リターナブルびん（ビールびん、一升びん）

(単位：%)

項目 年度	資源物							資源物 以外
	やわらかい プラスチック	紙類	木・草類	布類	鉄	アルミ	ガラス類	
家庭系	0.3	10.1	7.3	1.0	0.0	0.0	0.0	81.2
事業系	0.4	13.7	2.1	0.0	0.0	0.1	0.1	83.7
全体	0.4	11.3	5.5	0.7	0.0	0.0	0.1	82.0



### 3) 不適正排出物品別排出状況

家庭系可燃ごみの不適正排出物の割合は0.9%、事業系可燃ごみでは0.7%、可燃ごみ全体では0.8%でした。

※ 不適正排出物に該当するもの  
かたいプラスチック、陶磁器・石、鉄、アルミ、その他金属、ガラス類、有害ごみ、医療ごみ、その他不燃物

(単位：%)

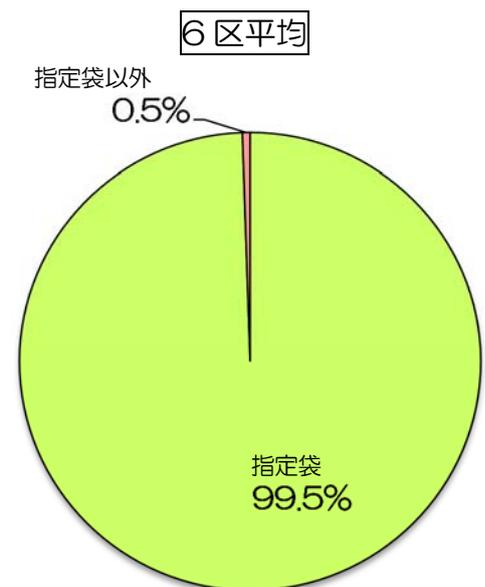
項目 年度	不適正排出物品						適正 排出物
	かたい プラスチック	陶磁器・石	鉄、アルミ、 その他金属	ガラス類	有害ごみ、 医療ごみ	その他 不燃物	
家庭系	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	99.1
事業系	0.5	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	99.3
全 体	0.7	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	99.2

### 4) 指定袋使用状況

家庭系可燃ごみの指定袋使用状況は、6区平均で99.5%でした。0.5%はレジ袋など指定袋以外での排出となっています。

(単位：%)

項目 年度	指定袋	指定袋 以外
中央区	98.7	1.3
花見川区	99.5	0.5
稲毛区	99.7	0.3
若葉区	100.0	0.0
緑区	98.9	1.1
美浜区	100.0	0.0
6区平均	99.5	0.5



# 3 経年変化

## 1) 物理的組成

本市では、平成19年度より「焼却ごみ1/3削減」を目標に、ごみ減量・再資源化を推進するため、資源物の分別排出に取り組んできました。

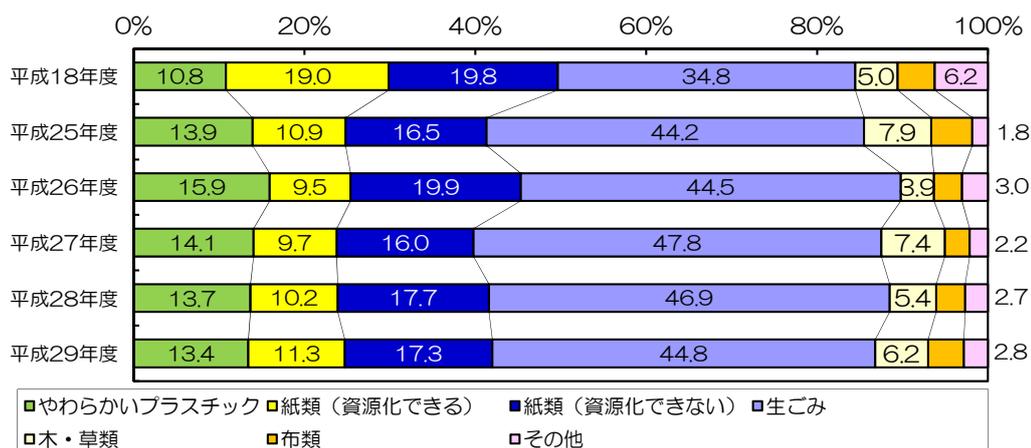
平成18年度と平成29年度を比較すると、可燃ごみ全体で資源化できる紙類の割合が19.0%から11.3%に大きく減少している一方、生ごみの割合が34.8%から44.8%に増加しています。「焼却ごみ1/3削減」を目標とした取り組みの成果として、家庭系可燃ごみ・事業系可燃ごみともに、紙などの分別排出が進んだことに加え、約8万トンもの焼却ごみを削減したことにより生ごみの割合が相対的に多くなったことが考えられます。やわらかいプラスチックは、家庭系可燃ごみ・事業系可燃ごみ・可燃ごみ全体のいずれも、平成18年度に比べ過去5年間の割合が相対的に多くなっていますが、大きな変動はありません。

また、平成29年度より、家庭から出る木の枝などを資源収集し、民間処理施設で燃料チップなどにリサイクルする「剪定枝等再資源化事業」を開始しました。再資源化事業を開始した平成29年度は、家庭系可燃ごみ・事業系可燃ごみ・可燃ごみ全体のいずれも、木・草類は過去に比べ集計上大きな変動はみられませんでした。

全体

(単位：%)

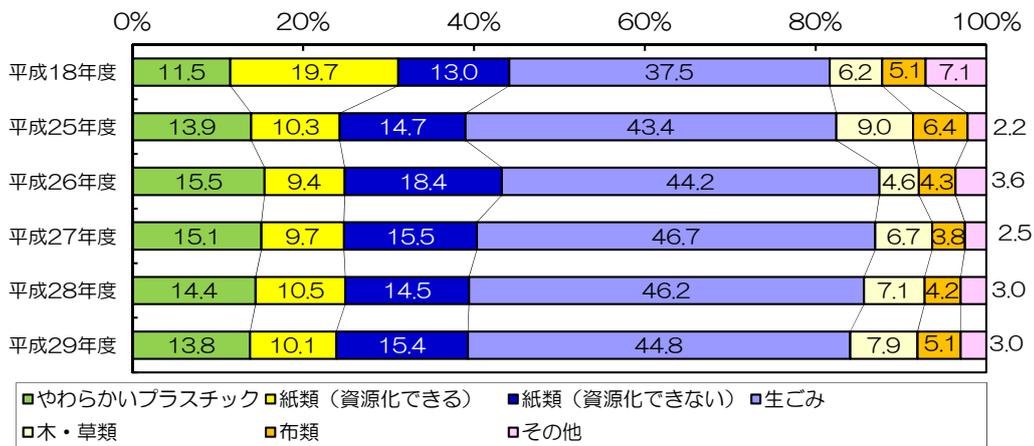
項目 年度	やわらかい プラスチック	紙類		生ごみ	木・草類	布類	その他
		資源化 できる	資源化 できない				
H18	10.8	19.0	19.8	34.8	5.0	4.4	6.2
H25	13.9	10.9	16.5	44.2	7.9	4.8	1.8
H26	15.9	9.5	19.9	44.5	3.9	3.3	3.0
H27	14.1	9.7	16.0	47.8	7.4	2.9	2.2
H28	13.7	10.2	17.7	46.9	5.4	3.4	2.7
H29	13.4	11.3	17.3	44.8	6.2	4.2	2.8



家庭系

(単位：%)

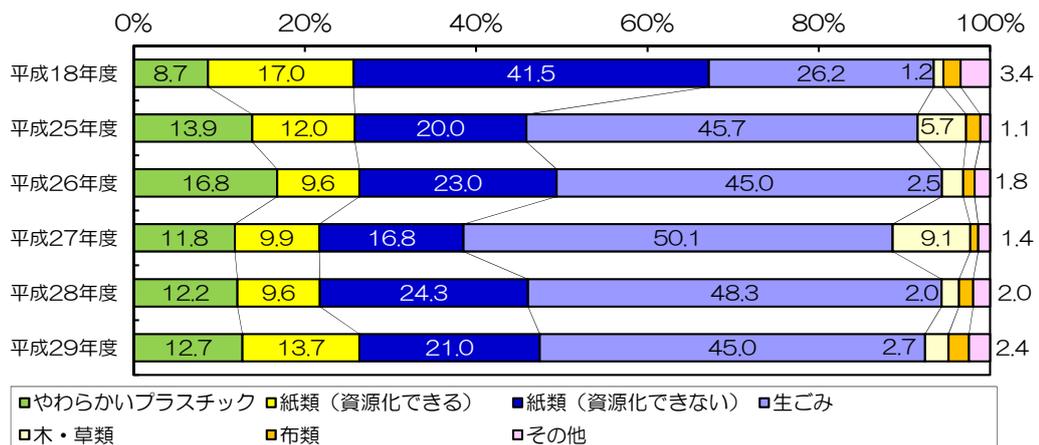
項目 年度	やわらかい プラスチック	紙類		生ごみ	木・草類	布類	その他
		資源化 できる	資源化 できない				
H18	11.5	19.7	13.0	37.5	6.2	5.1	7.1
H25	13.9	10.3	14.7	43.4	9.0	6.4	2.2
H26	15.5	9.4	18.4	44.2	4.6	4.3	3.6
H27	15.1	9.7	15.5	46.7	6.7	3.8	2.5
H28	14.4	10.5	14.5	46.2	7.1	4.2	3.0
H29	13.8	10.1	15.4	44.8	7.9	5.1	3.0



事業系

(単位：%)

項目 年度	やわらかい プラスチック	紙類		生ごみ	木・草類	布類	その他
		資源化 できる	資源化 できない				
H18	8.7	17.0	41.5	26.2	1.2	2.0	3.4
H25	13.9	12.0	20.0	45.7	5.7	1.7	1.1
H26	16.8	9.6	23.0	45.0	2.5	1.3	1.8
H27	11.8	9.9	16.8	50.1	9.1	0.9	1.4
H28	12.2	9.6	24.3	48.3	2.0	1.6	2.0
H29	12.7	13.7	21.0	45.0	2.7	2.4	2.4



平成29年度千葉市ごみ組成測定分析業務 概要版

発行日 平成30年3月  
発行者 千葉市環境局資源循環部廃棄物対策課  
〒260-8722  
千葉市中央区千葉港1番1号  
☎043-245-5236

業務受託者 株式会社環境管理センター